

9 月度土曜例会(2008/09/20)

本日のゲストスピーカーは **Mohammad** さん、名前の通り
イスラム圏出身の英国人です。彼のキャリアはイランの
Rasht という町で 10 歳まで過ごし **Dublin** に近い
Portmanock に移住、**York** の近くにある **Hull University** を
卒業後 24 歳で来日、3 年間岐阜県で ALT を務め現在は産
業科学関連に従事しています。本日のタイトルは“イランは
要らんか？” なんとユニークなことでしょう。さて、どん
な内容が飛び出すのか、さぞかし辛口のアメリカ、イギリ
ス批判が連発するのかなと思いきや、非常に人間的でイラ
ンの今、およびイラン人をより理解して欲しいという気持
ちが溢れていました。内容は地理、歴史から始まり日常生活の様
態など盛りだくさんです。あいにく PC の具合が悪く写真など
を見てもらえなくてごめんなさい、ごめんなさいと平謝り
でしたが、写真が無くとも内容は充分理解できたから OK
です。皆、また来てよ、そのとき見せてもら
うからと言っていました。



イランの正式な国名は **Islamic republic of Iran** で 1935 年まではペルシャと呼ばれていました。
1979 年の革命後この国名となったのです。

1) イランは人口約 6,600 万人 広さは日本の 4 倍強、緯度的には
沖縄から北海道までと同じですが長い歴史と地形上の結果か
多民族国家でエスニックグループは **Persian 51%, Azeri 24%,
Gilaki and Mazandarani 8%, Kurd 7%, Arab 3%, Lur 2%, Baloch
2%, Turkmen 2%, other 1%** と多様です。もちろん顔つきも習慣も
異なりますが宗教はイスラム、特にシーア派が圧倒的多数です。
尚、言葉も **Persian and Persian dialects 58%, Turkic and Turkic dialects 26%, Kurdish 9%**,
ですが公用語はペルシャ語です。アラビア語で無いこと、及びシーア派一色であることが特徴
でしょう



2) 彼の出身地 **Rasht** はどこか見て見ましょう。首都テヘ
ランの北西 240Km の所です。

Rasht is the capital of Gilan province in northwestern Iran and the largest city along the Caspian sea coast. It is a major trade center between Caucasia, Russia and Iran using the port of Bandar-e Anzali. Rasht is also a major tourist center with the resort of Masulé in adjacent mountains and the beaches of Caspian the major attractions. Rasht had an estimated population of 560,123 in 2005.



カスピ海沿岸で日本と同様四季があり、食材も豊富で気候も2-30度と非常に過ごしやすい所だそうです。カスピ海に面し山脈を背にした平野だからでしょう。主食はこめですが long rice でばさばさだから箸はつかえません。サフランライスが有名ですが丼ものもあるそうです。もちろん漬物も。ここでこめに関する trivia です。

Rice

It is believed that rice (berenj in Persian) was brought to Iran from southeast Asia or the Indian subcontinent in ancient times. Varieties of rice in Iran include champa, rasmi, anbarbu, mowlai, sadri, khanjari, shekari, doodi, and others. Basmati rice from India is very similar to these Persian varieties and is also readily available in Iran. Traditionally, rice was most prevalent as a major staple item in northern Iran, while in the rest of the country bread was the dominant staple.

The ubiquitous Persian Kabab is often served with both plain rice and a special (yellow cake) rice called tah-chin.

3) イランもろもろ

小学校ではアラビア語、英語を学ぶ。

部屋には靴を脱いで上がる

トイレは便座ではなくしゃがみ式

日本の正月に当たる旧暦の3月31日前後は new year で盛大に祝う。Zoloaster 教の流れで太陽を敬う。お年玉もある。

豚肉は食べないがラム、ビーフ、チキン、魚は豊富。

ピスタチオ、各種果物、ドライフルーツ、ジャム、カスピ海ヨーグルト、イチジク、枇杷も安くておいしい。

四季があるから桜も咲く

お見合い結婚が多い

ガソリンは安い（当然か？）

酒は原則として飲まないがロシアから買うことは出来る。飲んで

いるとき警察が来た場合金で解決する、これはオフレコ
動物ももちろん豊富、ペルシャ猫その他、巨大なゴキブリもいる

各種のパンがある。イランの南部は小麦がメインで北部は米がメイン

“ヘンだわね”はペルシャ語でスイカのこと



4) Iranian traditional musical instruments

SANTOOR (SANTUR, SANTOUR)

The santoor is a three-octave wooden-hammered dulcimer with seventy-two strings, which are arranged on adjustable tuning pegs in eighteen quadruple sets, nine (bronze) in the low register, and nine (steel) in the middle register.



TONBAK

The most popular percussion instrument in Persian music today is a goblet drum known as the Tonbak. The Tonbak is a large wooden instrument with a goatskin head.



DAF

Daf is one of the most ancient frame drums in Asia and North Africa. Daf has recently become very popular and it has been integrated into Persian music successfully.

ところで“イランは要らんか？”の意味するところが今回のスピーチ最重点です。最初に彼はわれわれにイランのイメージを尋ねました。確かにペルシャのイメージはノスタルジックでアラビアンナイト、ペルシャンカーペット、

古都 Esfahan, Tehran など親近感がありますがアメリカに盾突くイラン、強腰の AHMADI-NEJAD、ベネズエラ、チャイナと仲良くしている、パレスチナをはじめ周辺各国をサポートしている国、テレカを売っていた不法滞在イラン人、などイランというとネガティブイメージが日本人に強いのはなぜでしょう。

彼の言いたいことは真のイランを知って欲しい、映画、TVなどの悪いイランのイメージを考え直して欲しい、イラン人は家族を大切にし、知らない人にもファミリアで心から平和を愛する民族ですよ、ということでした。将来日本、イギリス、イランの橋渡しができるようになります、と強い決意も述べていました。